

介護初任者研修と喀痰吸引研修がスタート

第7回介護職員初任者研修と第3回^{かくたん}喀痰吸引等研修（倉持裕子校長）の開校式が6月5日、城西病院会議室で開かれました。介護職員初任者研修には達生堂グループの介護施設と城西病院から10人の受講生が出席、喀痰等吸引研修には介護施設と城西病院から5人の受講生が出席しました。

開校式で、白石裕比湖・城西病院理事長は「生老病死に思いやりを持って携わってほしい。そのために基本的な技術や知識を学び、キャリアとして生かしてほしい」とあいさつ。倉持校長は「団塊の世代が75歳を迎えるのも間近で、介護の必要性がさらに求められている。研修は、仕事などの両立で大変なこともあるが、みんなで励ましあい、全員が合格してほしい」と激励。開校式が終わると、さっそく研修に入りました。

介護職員初任者研修は、介護プロの登竜門ともいえる資格で、研修を通して介護の基本的な知識と技術を身につけていきます。達生堂グループでは、これまでグループ以外からも受講生を募っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度はグループ内の募集にとどめました。

研修は、「人間の尊厳や自立に向けた介護」「安全衛生」「介護と医療の連携」「認知症」「入浴と清潔保持」など幅広い領域を学習し、130時間にわたって講義と実習で学びます。そして最後に、修了試験に合格して資格が取得できます。

喀痰吸引等研修は、介護福祉士など介護職員が喀痰



吸引を行うために必要な研修です。研修は、「保健医療制度とチーム医療」「安全な療養生活」「健康状態の把握」「経管栄養概論など約50時間の講義に加え、5回以上の演習、20回以上の実地研修を行い、資格が取得できます。資格取得後は、口腔内・鼻腔内の喀痰吸引、気管切開部の喀痰吸引、胃ろう・腸ろうの経管栄養、鼻からの経管栄養などを行うことができます。

2021年6月7日



介護職員初任者研修の受講生たち



喀痰吸引等研修の受講生たち

©Tasseido group

